

株式会社田中化学研究所 2024年3月期

決算説明会 質疑応答要旨

(2024年5月10日)

【Q1】

リチウムイオン（車載用途）について、販売数量が今期増加する計画ですが、上期もしくは下期のどのタイミングで増加を見込んでいるのか、どのような販売先を織り込んでいるのかを教えてください。

また、ニッケル水素（車載用途）について、2024年3月期は販売数量が増加しましたが、四半期ごとに見ると必ずしも増加傾向ではありません。その中で今期販売数量が約26%増加する要因を教えてください。

【A1】

2024年3月期の当初の販売計画は30,600トンであり、今期の販売計画と同等です。これは顧客の生産調整や増産時期の遅れが解消されることを見込んだ数量計画です。リチウムイオン（車載用途）については、今期後半から一つのプロジェクトが立ち上がる見込みであり、下期から販売数量の増加に寄与すると考えております。

また、ニッケル水素（車載用途）について、2024年3月期はそれまでの半導体やその他部品不足が解消され、HVの販売数量が堅調でした。四半期ごとの販売数量に多少の増減はありましたが、何か大きな要因があった訳ではなく一時的なものと考えています。今期の販売計画について、足もとのHVに対する期待と現在顧客から頂いている販売計画を基にすると、この数量は達成可能だと考えております。

【Q2】

リチウムイオン（車載用途）が今期約33%増加する計画ですが、今期立ち上がるプロジェクトは増加要因の何割を占めていますか。また、ニッケル水素（車載用途）はPHV向けも含んでいるのでしょうか。

【A2】

今期立ち上がるプロジェクトが、リチウムイオン（車載用途）増加分の何割を占めているのかについて、具体的な数字は申し上げられません。一つの例にはなりますが、リチウムイオン（車載用途）向けの案件は、一般的に1件で5,000~10,000トン/年クラスになります。今期は下期からプロジェクトが立ち上がるため、通期で数量に寄与するのは来期以降になりますが、その規模のインパクトがあるをご認識ください。

一方でニッケル水素（車載用途）は、HV向けのみを取り扱っております。リチウムイオン（車載用途）の中には、PHV向けや一部のHV向けのものもあり、EV以外でもリチウムイオン（車載用途）が増加する要因がございます。

【Q3】

今期の販売数量が大きく増加する予想であるため利益に寄与すると考えていましたが、営業利益の予想はNVからのライセンスフィーを除くと5億円となっております。販売数量前提と利益予想に乖離があると思われませんが、その理由を教えてください。

また、今期設備投資が49億円の予想となっておりますが、何に投資するのでしょうか。

【A3】

販売数量は2割程度増加する見込みですが、固定費の増加も見込んでおります。販売数量増加によって伸びる限界利益を固定費の増加が上回ってしまうため、利益への影響は限定的と考えております。

また、設備投資については殆どがインフラ回りの経年劣化対応です。全て意思決定したわけではありませんが、販売数量の増加に対応するためにそのような投資も行う必要があると考えております。

【Q4】

2024年3月期は増益となりましたが、具体的に何が寄与したのかポイントを教えてください。

【A4】

2023年3月期に上昇した苛性ソーダや電気料金について、価格転嫁が進み限界利益率が上昇したことが1番の要因です。また、販売数量計画の達成が困難と判断した時より、減価償却費の発生タイミングをコントロールしたり、人員の採用を抑制しました。コスト先行の状況は変わりませんが、3万トン生産規模の固定費が発生しないようにコントロールしたことが、増益の要因となりました。

一方で今期は販売数量が3万トン規模となりますので、減価償却費の発生や労務費の増加など固定費が増える見込みです。それらが、今期販売数量の増加が利益に大きく寄与しない要因です。

【Q5】

以前5万トン体制に向けて複数のプロジェクトがあると伺いましたが、足もとでHVの増産が見込まれる中、プロジェクトに変化はあったのでしょうか。また、5万トン体制はいつごろになる見通しでしょうか。

【A5】

弊社のHV向け材料はニッケル水素（車載用途）がメインであり、計画の数量は達成できると考えております。また、リチウムイオン（車載用途）に含まれるPHVも昨年下半年より堅調であり、今期も計画通りに推移すると考えております。

一方でEVはPHVの10倍ほどの正極材料を使用するため、EVが伸びなければ5万トン規模への到達は難しいのが現状です。現在2つの大きなプロジェクトがあり、これらが立ち上がれば5万トンに近づくと考えています。このうちの1つが今期下期に立ち上がり、年間数量の半分ほどが今期の販売数量に寄与すると見込んで計画を立てています。しかしながら足もとのEV動向は不透明であり、顧客の電池に立ち上げの状況や歩留まりの状況によって材料使用の速度は変化しますので、引き続き注視する必要があります。

以上